Medicine for the last mile

すべてのアフリカの人々に健康と笑顔を

年次報告書

認定NPO法人
AfriMedico

2020

2020.04 – 2021.03

代表理事挨拶

ご支援を頂いている皆様へ

2020年度も多大なご支援を頂き、誠にありがとうございました。2015年 3月に NPO法人を設立し 6年が経ちました。2020年、世界的に影響を与えた新型コロナウイルスは、我々の活動にも大きな影響を与えました。そのような中でも多くの人に支えられ、声をかけて頂いたおかげで、何とか乗り越えられたと思っています。心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスは、周辺国では感染者が増えている中、私たちの活動国タンザニアは 2020年半ばから感染者数の開示を中止し、データがない中での活動判断は非常に難しいものでした。置き薬の薬剤価格も上下したため、調達量を増やし、スワヒリ語でのコロナ感染予防ポスターなどによる啓発を強化しました。タンザニアではまだワクチンは普及していません。ただ、新型コロナウイルスの感染が拡大状況にかかわらず、「今、私たちのできることを最大限に実行する。」のが私たちの活動だと思っています。少しでも感染の広がりを抑えることに貢献し、現地の健康と笑顔につながるように邁進してまいります。

2021年度は、研究の遂行および置き薬アプリ運用を本格的にスタートさせます。自他共にワクワクするような置き薬のイノベーションをすすめ、日本に還元したいと思っております。そのためには資金が必要です。年間 3,000円以上のマンスリーサポーターを募集しています。ぜひ、これを読んでいる皆様と共に未来を創りたいと考えておりますので、今後ともご支援・ご協力・叱咤激励を宜しくお願い致します。

2021年 6月

代表理事　町井恵理

私たちのMission

私たちは

“Medicine for the last mile”

をスローガンに、

医療を通じてアフリカと日本をつなぎ

健康と笑顔を届ける

ことをミッションとしています。

私たちの活動

私たちはアフリカと日本で以下の活動を行っています。

1. **日本発祥の置き薬事業の普及により住民のセルフメディケーションの促進**
2. **住民への医療知識の教育**
3. **医療環境調査による適切な現状把握**
4. **日本イベント・セミナーでのアフリカ課題の啓発活動**

置き薬で救える命をとりこぼさないことを目指し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）ーすべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられることーに貢献していきます。

2020年度活動総括

1 新型コロナウイルス感染症拡大への対応 …… p5

- ▶ 先が見えない状況の中、置き薬の「安心」を守るべく、薬剤の確保などの先手を打ちました。
- ▶ タンザニアでの移動が減少した結果、置き薬設置軒数はほぼ横ばいとなりました。
- ▶ タンザニアと日本間のコミュニケーションを工夫し、タンザニアのスタッフの成長を実感した一年となりました。

2 継続的な事業改善に向けた利用者アンケート …… p7

- ▶ コロナ影響により新規拡大が難しい中、置き薬事業の改善に向けた既存の利用者へアンケートを行いました。
- ▶ アンケートを分析した結果、ただ置き薬を届けるだけではない疾病予防の啓発活動の重要性を再認識しました。

3 かけ場帳アプリCUORE 試験導入開始 …… p8

- ▶ 2 年前より企画開発を続けてきた CUORE（CUstomer sheets Organized for Remote Environments、クオーレ）の試験導入を開始しました。

  まだまだ問題は山積していますが、ICT 活用の大きな一歩となりそうです。

1

新型コロナウイルス感染症
拡大による活動への影響

初期行動

日本でも感染が拡大し始めた 2020 年 3 月頃、AfriMedico ではその先の展開が分からず、最初はメンバーで情報収集にあたりました。タンザニアでは感染者が出たことで学校および寮が閉鎖され、AfriMedico の学生スタッフの多くが地方の実家に戻り、6 月末までその状態が続きました。

その頃、最大都市ダルエスサラームでは薬剤が高騰し始めていました。私たち AfriMedico の置き薬は、タンザニア国内の卸で購入した薬をより安価に安定的に村へ届けることによって成り立っています。原価の高騰は採算に直結しますし、何よりも置き薬の長所である安定供給ができなくなるおそれがありました。そこで、この間、AfriMedico では調達量を増やすことにしました。卸での価格チェックを通常よりも頻繁に行い、よく使われる薬については早めに確保することでこの時期を乗り切りました。

なお、薬価については、現在はコロナ以前と同等に戻っていますが、世界的に需要が逼迫する状態が続いていますので、引き続き見守ってまいります。

1

タンザニア－日本間の
コミュニケーションの変化

初期行動

ご承知の通り、渡航制限などの制約は AfriMedico の活動にも大きな影響を与えました。2020 年度は創立以来初めて、1 年の間、日本メンバーが全く渡航しない年となりました。そんな中、AfriMedico では、先日、タンザニアと日本双方のスタッフが集まり、初めてオンラインでの All Hands Meeting を開催しました。

本会議はこれまで日本メンバーが現地を訪問した際に実施していたものですが、今回、オンラインで開催したことで、日本からも多くのメンバーが参加することが可能となり、とても盛り上がりました。まずはお互いを知るためのアイスブレイクから始まり、今年の活動のふりかえりや今後の戦略、そして具体的なアクションについて、議論を深めました。

こうした状況下ではタンザニアのスタッフが自分たちの目で見たものを自分たちで判断していくしかありません。結果として「自分たちの手で自分たちの国を良くしていく」という本来あるべき姿を日本メンバーがサポートできた一年でした。

2

タンザニア現地での置き薬
利用者アンケート実施

継続的な事業改善に向けた利用者アンケート

AfriMedico 置き薬事業の継続的なオペレーション改善の為、現地のニーズを把握する目的で既存利用者アンケートを実施しました。アンケート項目は、家族構成や職業、世帯収入や収入時期等の基本的でありながら現地に根差した内容から、薬の利用頻度や目的、置き薬に入れて欲しい薬の種類や利点・改善点といったニーズや満足度の把握が主となり、32 名の利用者から回答がありました。

アンケート結果からは、置き薬によって医薬品へのアクセスが容易になったという声をいただいた他、現地で最も必要とされており利用頻度が高い医薬品は解熱剤であるといった薬剤ニーズに関する回答や、薬の使用目的の理解度について課題が窺える回答もありました。

例えば、リーフレットによる置き薬の使い方や紙芝居による疾患啓発活動について、見たことがあるか、内容の分かりやすさなどのアンケート結果では、見たことがない、難しかったと言った意見があるほか、「どちらでもない」という回答の多さから、リーフレットや啓発活動に対する関心の薄さが感じられました。AfriMedico がこれまでタンザニアで 5 年間活動を続けてきた中で、ただ「置き薬を置く」のではなく、薬の使用方法をきちんと理解してもらい、疾病の予防を行うためにも医療教育の活動は非常に重要だと感じています。

これまでの新型コロナウイルス感染症予防啓発ポスターや置き薬リーフレットを作成・普及するのはもちろんのこと、上記のような健康情報あるいは健康そのものへの関心を高めていくための活動を、現地スタッフとともに考え、実行し続けてまいります。

3

か け 場 帳 ア プ リ
CUORE 試 験 導 入 開 始

予定より大分開発期間が長引いてしまいましたが、現地で置き薬マネージャが使うためのアプリ、CUORE が、ようやく現地での試験導入が出来る状況になりました。

実際の運用が始まると、想定していなかった問題も出てくると思いますが、一つ一つ改善していきたいと思います。

構成は以下の通りです。

端末は、ごく初期から Android を選択していました。理由はいくつかありますが、主には、タンザニアでは iPhone はお金持ちのおしゃれアイテムなので、置き薬マネージャ宅からの盗難リスクを考えたからです。端末が Android なので、アプリ開発言語には Kotlin の利用も考えましたが、将来的な iOS 対応も考え Flutter にしました。

通信回線は、もちろん使えるならインターネット接続で通信したいですが、タンザニアの農村部は携帯電波もおぼつかない領域なので、電話回線での SMS 通信も使う必要があります。グローバルで SMS サービスを提供している会社は複数ありますが、アフリカでのカバー範囲の広さから Twilio を選択しました。

CUORE から送られたデータを受け取るサーバーは、Azure を使っています。当初は GCP を検討していたのですが、Azure は TechSoup の恩恵が受けられることもあり、Azure Functions でデータを受け取り、Cosmos DB に格納しています。

運用開始後は、DB に格納した結果を Power BI でレポート作成し、ダルエスサラームのメンバーとリアルタイムで共有出来るようにする予定です。Power BI の部分は、元々は Web アプリを作ろうかと考えていたのですが、TechSoup があるので Power BI のダッシュボードを利用しようと思っています。TechSoup は、私たちのような非営利団体にとって、本当にありがたい制度です。

緒方貞子元 JICA 理事長追悼記念シンポジウム

2020年11月2日にオンラインで行われたシンポジウム「With/Postコロナ時代のグローバルな課題と人間の安全保障」では、政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会尾身茂会長とご一緒させていただきました。1,200 人以上が参加したイベントの様子はNHK アーカイブスでご覧いただけます。

■ ETV特集『すべての人々に尊厳を　～緒方貞子が遺（のこ）したもの～』
https://www.nhk.or.jp/archives/teachers-l/list/id2021011/

本シンポジウムが開催されたのは年末年始にピークを迎えるコロナ第 3 波の始まりの頃でした。新型コロナウイルスの脅威から命や暮らし、尊厳を守るため国際社会ではどのような取り組みが必要とされているのか?真摯な議論が行われました。

私たちが活動するタンザニアの隣国ウガンダからは「現地には異なる小社会がいくつも存在するが、特に女性と子ども、障がい者に支援が十分に行き届いていない」との声が届きました。対して尾身会長からは国際社会が医療へのアクセスの格差という問題にどう立ち向かうかが極めて重要だという指摘がされました。医療へのアクセス改善の一つとして置き薬を提供している AfriMedico からは、薬だけでなく、薬の適正な使用や疾病予防など啓発活動をセットにすることで住民自身が知識を持つことの大切さを現場視点でお伝えしました。

置き薬発祥の地 富山での講演

オンラインイベントが中心となる中、8 月には数ヶ月ぶりのオフサイトで「伝統の「置き薬」のこころを世界へ」と題した講演を行いました。AfriMedico のミッションである「医療を通じて、アフリカと日本をつなぎ、健康と笑顔を届ける」を体現したイベントとなりました。

創立 5 周年イベント

AfriMedico は 2020 年 4 月に創立 5 周年を迎えました。節目の年に、ケニアで PCR 検査を推進している ConnectAfya、そしてバングラデシュで活動している miup をお迎えし、『～世界の医療課題に取り組む先駆者たちによるトークセッション～』を開催しました。私たちが活動するタンザニアを含め、各国でのコロナによる影響、私たちが今後をみすえてできること、共通する課題など、多岐にわたって議論を行いました。

日経イノベーション・ミートアップ Meetup

年末には、AfriMedico、Baridi Baridi（タンザニアでエアコンのサブスクリプション型ビジネスに取り組む、ダイキンと電力スタートアップ WASSHA の共同出資会社）、味の素ファンデーション（ガーナで栄養改善プロジェクトを実施）の三者が集いアフリカについて語り合いました。

ソーシャル・ビジネスを志す高校生など、多くの方からご質問もいただき、未来に向けて事業や活動の拡大のために、多様なステークホルダーとどう連携するのか、他国への展開をどう進めるのか、など活発なやりとりが展開されました。

読み終わった本などで寄付が可能になりました

以前より「お宝エイド」を通じた寄付を頂いていましたが、ここにブックオフコーポレーションさんが運営する「キモチと。」が加わり、本や DVD ソフトなどを寄付に変えて頂くことができるようになりました。

11 月にキャンペーンを実施したところ、期間内に 18,053 円の寄付が集まりました。置き薬ボックス 12 個分に相当します！　本当にありがとうございました。

呼びかけにお応えいただくたびに、嬉しいと同時に身が引き締まる思いを抱いていました。みなさまからの温かいお気持ち、タンザニア農村部に暮らす人々へしっかりと届けます！

キモチと。

https://www.bookoffonline.co.jp/sellfund/BSfSellFundEntry.jsp?PARTNER_CD=ZW028

ご支援いただいた皆様

支えてくださった企業・団体の皆様

2020 年度も寄付や助成金また技術提供などの様々な形でご支援をいただきました。
その期待に応えられるよう、課題をひとつずつ克服しながら成果につなげていきます。
改めまして皆様のご厚意に感謝申し上げます。

- 株式会社1万年堂出版
- 株式会社廣貫堂
- サムライカットジャパン株式会社
- 株式会社　参謀 's
- ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ
- 医療法人真生会
- 株式会社セールスフォース・ドットコム
- 大鵬薬品株式会社
- 株式会社中京医薬品
- 一般社団法人日本国際協力システム
- 日本マイクロソフト株式会社
- ノーエチ薬品株式会社
- 株式会社メンタルポジション
- リコー社会貢献クラブ・FreeWil

寄付者の皆様

マンスリーサポーター	67名
寄付者合計（年3000円以上）	113名

AfriMedico は 2019 年 11 月 8 日付で東京都から認定を受けることができました。この度認定 NPO 法人となったことで、支援者様は寄付金控除（個人）や損金算入限度額の枠の拡大（法人）、相続財産の非課税といった税制上の優遇措置が受けられるようになりました。
引き続き寄付を通じて事業を支えてくださる企業・団体・個人の皆様とともに、認定 NPO としての責任を果たすべく適切な事業運営、情報公開を行い、社会的インパクトの創出に邁進してまいります。
認定 NPO 法人の資格は 3000 円以上の寄付者が年間 100 人以上（5 年間平均）であることで 5 年後の更新が可能となるため、1 人でも多くの方々がご支援の輪に加わっていただけますようお願いいたします。

団体活動

団体概要

団体名	認定 NPO 法人 AfriMedico
設立	2015 年 3 月 31 日

代表理事	町井 恵理
理事	青木 基浩
理事	山口 牧子
理事	竹村 のり子
監事	蒲地 正英

組織図

日本	
海外戦略	経理 / 財務
医療教育	人事
申請	法務
研究	IT
企業連携・資金調達	広報

タンザニア	
Operation	Research
Development	Promotion
Health Education	Treasurer
Customer Success	
Procurement	

日本メンバーの働き方改革

2020 年度の AfriMedico の活動は、コロナウイルス感染症の拡大により、以前は対面で行っていた定例会を含め、すべてオンラインへの移行を余儀なくされました。しかしながら、Office365 や Slack など、以前より IT チーム主導で導入していたプラットフォームを積極活用することで、テレワークへの移行は想像以上にスムーズに進み、渡航が制限される中、タンザニアメンバーとも遠隔で連携を図ってきました。

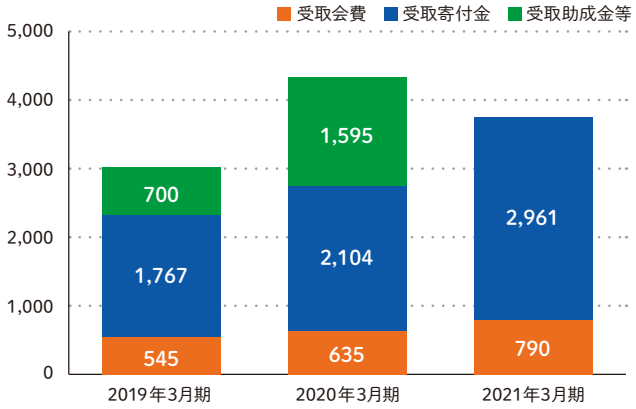
また、オンライン説明会を経て入会したプロボノは 10 名を超えましたが、活動場所の制約がなくなったことで関東・関西以外の地域や海外からの参加が増えたことは、新たな可能性を感じさせられる出来事でした。対面ならではのコミュニケーションや、現地での活動状況把握など、オンラインのみでは難しい点もありますが、引き続き対面での活動が制限される中で、テレワークの利点も活かしつつ事業を進めてまいります。

財務報告

活動計算書	
科　　目	金　額（円）
Ⅰ 経常収益	
1. 受取会費	790,000
2. 受取寄付金	2,960,975
3. その他収益	58
経常収益計	**3,751,033**
Ⅱ 経常費用	
1. 事業費	963,914
2. 管理費	244,481
経常費用計	**1,208,395**
当期経常増減額	2,542,638
Ⅲ　経常外収益	
経常外収益計	41,942
Ⅳ　経常外費用	
経常外費用計	0
当期正味財産増減額	**2,584,580**

貸借対照表	
科　　目	金　額（円）
Ⅰ 資産の部	
1. 流動資産	8,185,864
2. 固定資産	0
資産合計	**8,185,864**
Ⅱ 負債の部	
1. 流動負債	329,648
2. 固定負債	0
負債合計	**329,648**
Ⅲ 正味財産の部	
正味財産合計	7,856,216
負債及び正味財産合計	**8,185,864**

直近３事業年度の経常収益の推移（単位：千円）



2021年4月24日

NPO法人　AfriMedico
代表理事　町井　恵理　様

監事　濱地　正

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人であるAfriMedicoの2020年度（2020年4月1日から2021年3月31日まで）の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、定款及び2020年度の活動方針、事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、私は、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人であるAfriMedicoの2021年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認める。

以上

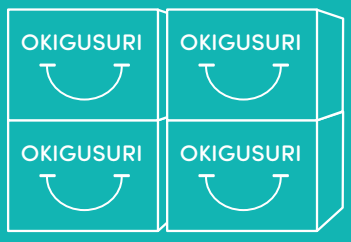
AfriMedico の活動を知って個人でご支援いただいた寄付者の方、企業様より寄付をいただき、受取寄付金の金額は前年度と比べ増額となりました。

また、コロナ禍により一時期活動ができなかったため、事業費の額が抑えられ、経常増減額が大きくプラスとなっております。

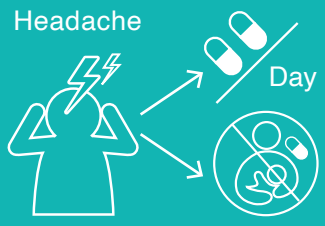
次年度以降において、置き薬事業の展開、研究活動、アプリケーション開発等により頂いた資金を活用してまいります。

寄付のお願い

AfriMedico はアフリカに健康と笑顔を届けるためにマンスリーサポーターを募集しています。



月々500円のご寄付で
薬箱4箱を届けられます



月々1000円のご寄付で
村人の健康医療教育
1ヵ月分を届けられます

▶ **マンスリーサポーター　月々 500 円〜**

クレジットカード決済、または PayPal でのご寄付がご利用いただけます。

▶ **今回だけの寄付　1,000 円〜**

クレジットカード、PayPal、銀行振り込みにていつでも任意の金額でのご寄付をご利用いただけます。

銀行名：楽天銀行　第一営業支店（251）
口座番号：　7597662　口座名：アフリメディコ

［ **申込方法** ］　下記 URL から支援金額・方法を選択
http://afrimedico.org/donation/

モノで寄付をする

お宝エイド：使わなくなった貴金属、書き損じはがきや切手などを送ることでご寄付いただけます。
https://npo.otakara-aid.com/pub/organizations/detail/59

キモチと。：本や DVD・ゲームソフトをはじめ、発売から 5 年以内のスマートフォンなどのモノでご寄付頂けます。
https://www.bookoffonline.co.jp/sellfund/BSfSellFundEntry.jsp?PARTNER_CD=ZW028

様々な寄付の手段：

Yahoo! ネット寄付 — T ポイントや Yahoo! ウォレットからご寄付いただだだけます。
つながる募金 — ソフトバンクユーザーの方は携帯電話利用と一緒にお支払いができます。

AfriMedico は 2019 年 11 月 8 日付で東京都から認定を受け認定 NPO 法人となることができました。
支援者の皆様は確定申告を行うことで税制上の優遇措置をうけることができます。

認定NPO法人

AfriMedico

E-mail : afrimedico@afrimedico.org

Web site : https://afrimedico.org/

Facebook: www.facebook.com/afrimedico

Twitter: https://twitter.com/AfriMedico

Instagram: https://www.instagram.com/afrimedico/

発行：2021 年 6 月